

## 粹な遺産

理事 若狭公一

いつか誰かに紹介したくて、チャンスをうかがっていたことがあります。今回、NLへの執筆の機会を頂戴し、迷わずタイトルを決めました。タイトルは「粹な遺産」です。

遺産といえば世界遺産でしょうか。姫路城、屋久島、白川郷、サグラダ・ファミリア、モンサンミッシェルなど名立たる文化遺産や自然遺産を連想させます。また、それに匹敵するかしないか、親の遺産も連想されます。ここで私が紹介する遺産は、そんな壮大なものではありません。下水道事業の工事や修繕の際、施工する職人さんや発注側の担当者がこっそり遊び心で残したような「飾り」などです。

写真は、とある下水処理場の最終沈殿池です。

ちょうど修繕か点検中だったのか、水を抜いた状態だったところを撮影したものです。処理水が流出する開口部に、銅板でできた富士山が見えます。



恐らく、処理水の上澄みを得るために設けられた三角堰が、富士山の形に見えたのでしょう。富士山にかか

る雲もいい感じです。もう一つの写真は、躍動感が印象的な水面を跳ねる鯉です。こちらもやはり銅板でできています。どちらも和柄テイストで素敵なデザインです。そして何より縁起がいい。

この最終沈殿池が作られたのは昭和50年代ですが、処理水を流すトラフの防藻対策として、平成に入ってから銅板張り工事が行われました。飾りがついたのはきつこの時です。最終沈殿池の機能とは関係のないこの飾りが、工事の仕様に組み込まれていたとは考えにくい。施工業者さんと担当者の信頼関係で成されたものかと推察されます。この飾り、実は関係者でも存在を知る者は多くありません。今ではなかなか許されない、無駄と思われるかもしれませんが、私にとっては先輩たちの粋を感じる貴重な遺産です。少し疲れたときにはこれを眺めて、形こそなくても粋を感じさせる仕事をしようと、自身を鼓舞してまた走り出します。

先輩、「粹な遺産」をありがとう。

## 2023 年度活動報告

### 研究集会「下水道計画における降雨と雨水流出を考えるー計画降雨・合理式のレビューを中心にー」の開催

高島英二郎

計画降雨と雨水流出は雨水対策の基本です。1970年「応用水文統計学(京都大 岩井重久、宮崎大 石黒政儀)」出版など活発であった時期を過ぎ半世紀、この基本分野への関心は低かったように思いますが、近年は浸水被害の頻発、気候変動を踏まえた計画見直しのため、動きが出ています。このようなタイミングで、標記研究集会を1月24日にオンライン開催しました(外部接続数82)。秋山理事の進行により、栗原理事長から「そもそも雨水対策は下水道促進の原動力であった」などの挨拶、3件の発表、総合討論(阿部前理事コーディネート、約1時間)では多くのチャット質問への回答及び発表者コメントで時間は満了となりました。3人の講師による発表・コメントを次に紹介します。

国総研松浦講師からは、令和2年全国約千団体への計画降雨

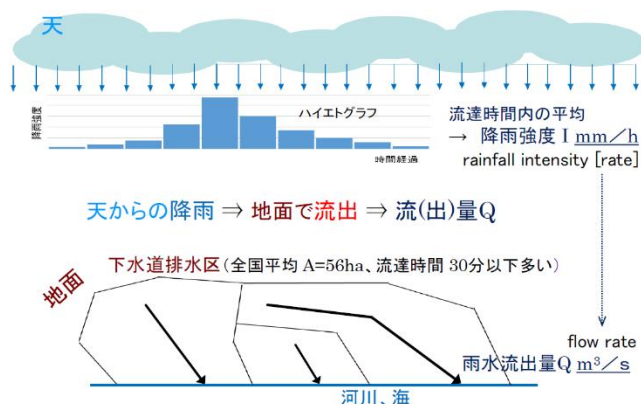
等アンケート結果を主に発表頂きました。計画雨水量算定については、合理式が 97.4%、実験式採用団体もわずかにありました。計画降雨の確率計算手法、降雨資料の整理方法については、不明との回答が約 2 割もあったように、自治体の担当者が雨水の知識があるとは限らないため、データベース等の必要性の言及がありました。

日本水工設計小林講師からは、実務面からの合理式の重要性、浸水シミュレーションの効果的な利活用等について説明して頂きました。

高島の発表では、合理式の原点たる流達時間の提唱(1851年)、米元晋一氏(東京市)の欧米調査による降雨強度曲線式・合理式併せた日本導入(1915年)、降雨強度曲線式は降雨の時間変動特性を表すこと、米土木学会等による合理式仮定、実験式と合理式の論争、実データを用いた合理式の妥当性検証など、合理式等について歴史を振り返りつつ深掘りを行いました。

雨水については、基本に曖昧さがある状況で今に至っているように感じており、合理式ですら解釈に差があります。実験式は 1 時間強度のみを使うことから、米元氏や 1968 年土木学会衛生工学委員会がその不合理性を指摘したにも関わらず設計指針等に載り続け、合理式の解釈にも影響を及ぼしているように思います。

今回の研究集会は専門性がやや強く水倶楽部として行うことに懸念の声もあったのですが、アンケート結果は[大変良い 19、良い 27、普通 1]と水倶楽部としての成果は残せたと考え、私としては更に調査検討、別の機会も通じ発表を行っていきたいと思います。



## 下水污泥肥料利用の加速化を図る研究集会報告

清水 治

資源活用型下水道システム部会 (SKG) は、2 月 7 日 (水曜日) 13:30 より首記の研究集会を、(一社) 日本下水道施設業協会の協力のもと、馬事畜産会館大会議室で開催しました。今回は

NP0 21 水倶楽部開催での研究集会では最も多くの参加者、118 名 (会場が 32 名、インターネットでの参加者 86 名) を集めました。昨年度設立された「下水污泥資源の拡大に向けての官民検討会」の審議に基づき、国土交通省、農林水産省、東京都、コンポストメーカーの講師を招き以下のように行いました。

NP0 の秋山礼子司会の元、NP0 21 世紀水倶楽部理事長 栗原秀人と、(一社) 日本下水道施設業協会専務理事 原田一郎氏の挨拶に引き続き国土交通省水管理・国土保全局下水道部下水道企画課下水道国際・技術室長 西 修先生の「下水污泥資源の肥料利用拡大について」をテーマにリン回収方法や官民との検討会の報告を受けました。また農林水産省消費・安全局農産安全管理課課長補佐 瀧山幸千夫先生の「污泥資源を使用した肥料成分を保証可能な新たな公定規格 (菌体リン酸肥料) について」をテーマに菌体リン酸肥料が一般有機肥料との混合で使用できるようになり、用途が広がるとの報告がありました。また東京都下水道局技術開発担当部長 家壽田晶司先生より「東京都産下水再生リンの広域での利用に向けて」をテーマに過去には都も下水污泥を天日乾燥で肥料にしていたことや、脱水ろ液からの再生リン製造施設の報告がありました。また(株)アサギリ代表取締役社長 蓑威頼先生より「下水污泥肥料化と地域との連携事例とリン酸肥料への期待」をテーマに富士山麓の牛糞肥料の販売実績と下水肥料の期待の話がありました。最後は NP0 理事の村上孝雄から「海外における下水污泥の肥料利用とリン回収の動向」をテーマに米国や EU などの下水污泥農業利用の状況の報告がありました。最後の村上孝雄をコーディネーターとした総合討議では各先生方のリン肥料への思いと、今後の発展の期待で大変盛り上がりしました。





## 会員だより

### 「水」百選

栗原秀人

「名水百選」はあまりに有名で、各地の地域振興に貢献しています。さて、当倶楽部にもっと関係の深い「水」百選があるのをご存知でしょうか。

「近代水道百選」は明治20(1885)年の横浜近代水道布設から100年目の昭和60(1985)年、厚生省(当時)企画で選定されました。時の水道普及率は93%を超え、この間に築造された膨大な水道施設の中から、近代水道の発展を実証するもの、市民の水道として親しまれているもの、文化財として評価・保有されるべきものが、明治、大正、昭和にわたって選定されました。水源、導水路、浄水場などの主要施設のほか、ゴム製起伏堰、曝気槽、フッ素電解除去設備など当時の果敢な取り組みも顕彰されています。

「蘇る水百選」は、旧下水道法制定の明治33(1900)年から100年目の平成12(2000)年、下水道が水環境の保全回復に果たしている事例を紹介することで下水道への理解を深めようと建設省(当時)によって募集・選定されました。

下水道整備により水環境を保全・回復させた部門、処理水の送水等により水環境を保全・回復させた部門、せせらぎなどの水環境を創造した部門の3部門で、東京都「江戸の水文化を甦らせた下水道整備・隅田川」、福岡市「水循環・水環境の保全・再生の礎を築く下水道」などが選定されましたが、水辺の賑わい、生き物の保全、水資源確保などの下水道のアウトカムが評価され、下水道の持つ多面的な価値と機能が見えてきます。

さて、「近代水道百選」と「蘇る水百選」の認知度はどうでしょうか？

残念ながら両百選は「名水百選」には及びません。皆さん、是非ネットで検索してください。

選定から時が経って、水道、下水道ともに求められるもの、支える技術の革新に伴ってその姿形を変えています。改めて令和の「水道百選」「下水道百選」を選定し、見えにくい水道と下水道が地域の暮らしと経済、水を支えてきたことを未来へと繋いでいくことが大切だと感じています。

### フォークソング

中尾正和

昨年11月だったか、あるトーク番組に出演していた岡林信康を久しぶりに見た。父親がキリスト教の神父で、本人は神学部中退という変わった経歴を持つ。その番組で、岡林が12月に東京でもデビュー55周年コンサートを開くことを知った。すぐにチケットを手配したが締め切り間際で、残っていた切符は2階席の一番後ろの数席だけだった。岡林は1960年代後半から1970年代にかけて、フォークの神様と呼ばれていたが、多分、団塊の世代以降の人は名前も知らないかもしれない。コンサートには過去2回行ったことがあった。最初は自分の結婚式の二日前で、家人は両親から随分とあきれられたらしい。2回目は1983年頃で2才の子供を含めて一家総出であった。今回は40年ぶりなので、どんな歌を歌うのかコンサートの日が待ち遠しかった。

会場は猿江恩賜公園という実に古めかしい名の公園内にあ



る、ティアラこうとうという都の施設。会場に入る前から、聴衆の年齢層は高いだろう、と想像していたが案の定、平均70歳代半ばという感じだっ



た。演奏は最初40分、20分の休憩の後、60分というもので、初めは少し声がかすれた感じがしていたが、乗ってくると若いころの雰囲気やよみがえってきた。司会者なし、楽器は本人のフォークギターに伴奏のピアノとレキントギターだけ。曲のうち半数以上は、山谷ブルース、流れ者、26番目の秋などよく知っている歌で、思わずロゾさんでいた。司会者なしと書いたが、彼の場合には不要だろう。下手な芸人よりも喋りはうまく、思わず引き込まれるのである。60周年記念コンサートの話は出なかったようだが、あれば聞きに行きたいと思う。

## 徒然水草 其之伍 「プーチンの味」

嫌気好気法師

昨年、ISOの水再利用規格会議でカナダ・ヴォーン市に出張した。ヴォーン市は大都市トロントの北約20kmにあるが、特にこれと言って何もない小さな町で、食事をするにもレストランは数軒しかなかった。

海外では、どこに行っても大抵中華料理屋はあるのだが、この町には見当たらず、あるのは肉系レストランばかり。メニューは肉、肉、肉である。野菜も少ない。ホテルの朝食もまともなサラダは無く、しおれたホウレンソウみたいなのが申し訳程度にあるだけ。中東のホテルの朝食の方が、よほど生野菜が多かった。

では魚料理とは言えば、これもフィッシュ・アンド・チップスくらい。総じて料理は脂っこくて塩辛く、健康に良くない事この上ない。カナダ人は男女とも関取体形の人が多いのも宜なるかなである。

結局、なんのかわりで肉ばかり食べ続け、最終日の夕食もうんざりしつつも肉系レストランに行ったのだが、メニューをよく見るとステーキ等に混じって、POUTINEというものがある。どう読んでも「プーチン」だ。こんな時、スマホは便利なもので、検索するとフランス系カナダの伝統的料理らしい。「カナダ料理」なるものと遭遇したのは初めてなので、その名称には若干抵抗があったものの、喜んでこれを注文することにした。

さて、出てきたプーチンは、フライドポテトに細切りチーズをまぶし、その上に一口サイズの鶏唐揚げをいくつも乗せてオープンで熱々に焼き、仕上げにグレイビーソース（肉汁のソース）がかけられている。美味そうだ。口に入ると、鶏肉とグレイビーソースが良く調和して実に旨い。また、下の方のフライドポテトはとろけたチーズと絡み合ってこれも絶妙である。さすがにカナダで長く愛されてきた料理というだけはある。その店では鶏唐揚げがトッピングとして乗せてあったが、プーチンに何を乗せるかは地域や家庭で色々らしい。まさに日本の雑煮みたいな料理なのだ。

なかなか美味しいプーチンだが、そのボリュームたるや凄い。フードロス削減を重視する筆者は完食を目指したものの、残念ながら四分の一ばかりを残して力尽きてしまった。また、脂っこくて塩辛いことには変わりない。やはりカナダの料理である。

さて、料理のプーチンは結構なお味だったのだが、発音が同じ某国大統領閣下は、まだまだ激辛路線継続なのだろうか？彼の地に早く平和が訪れて欲しいと願うばかりである。



### 編集幹事のあと整理

- 本号は2週間の間隔を置いた二つの研究集会の報告を対象にしたので、盛りだくさんとなりました。
- 両活動はそれぞれ「やや専門性が強かった」「最も多くの参加者」など報告されています。読み比べてください。
- 若狭理事の巻頭文、理事長の栗原氏からは会員日より、いずれも「遺す」がキーワードですね。NPO活動も同様です。
- 村上理事の徒然水草第五回の「肉料理ばかり」の部分。わたしもつい最近アフリカ旅行を楽しみましたが、肉が主でしたね。でも海岸部の国だったので、海魚（下の写真）もそして川魚もありました。いずれでも「量が多い」のは共通します。身体をもとに戻すために帰国後のダイエットが課題となっています。
- 会員日よりコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月



セネガル・サンレイ大西洋岸の浜辺魚市場への水揚げ風景